

高齢者等新型コロナ予防接種の前に

ご本人またはご家族がお読みください

◎新型コロナ予防接種の効果

予防接種を受けてから効果が現れるまで約 2 週間程度かかり、免疫がついても発症を予防する効果は 100%ではありません。

コロナウイルス感染症発病後の重症化予防効果や発症予防効果の向上が期待されますが、時間の経過とともに発症予防効果は低下することが知られています。

◎予防接種の副反応

新型コロナワクチンの主な副反応として、注射した部分の痛み、疲労、頭痛、筋肉や関節の痛みなどがみられることがあります。できるだけ接種当日・翌日に無理をしないですむように予定を立てておくといよいでしょう。これらの症状は、たいてい数日以内で軽快することが分かっています。

稀な頻度でアナフィラキシーが発生します。また、頻度としてごく稀ですが、ファイザー社及びモデルナ社のワクチン接種後に、心筋炎や心膜炎を疑う事例が報告されています。ワクチン接種後 4 日程度の間、胸の痛みや息切れなどの症状がみられた場合には、速やかに医療機関を受診してください。

◎予防接種健康被害救済制度について

新型コロナの予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障が出るような障害を残すなどの健康被害が生じた場合、厚生労働省によりワクチンとの因果関係があると認定されると、予防接種法に基づく救済（医療費等の給付）を受けることができます。（令和 6 年度秋冬接種から請求期限あり）

[裏面もあります](#)

高齢者等新型コロナ予防接種の前に

ご本人またはご家族がお読みください

◎予防接種を受けることができない方

- ①発熱がある方（37.5度以上の発熱）
- ②重篤な急性疾患にかかっている方
※「重篤かつ急性」の病気にかかっている場合、病気の進行状況が不明であり、このような場合は予防接種を行うことができません。
- ③予防接種の接種液の成分によりアナフィラキシーショックなど重度の過敏症の既往歴のある方
- ④上記以外で、予防接種を受けることが不適當な状態にある方
- ⑤その他、接種医師が予防接種を見合わせるべきと判断した方

『アナフィラキシーショック』とは、通常予防接種後約30分以内に起こるひどいアレルギー反応のことです。発汗、顔が急にはれる、全身にひどいじんましんが出る、吐き気、嘔吐（おうと）、声が出にくい、息苦しいなどの症状に続き、血圧が下がっていく激しい全身反応です。

◎予防接種を受ける際に、主治医と十分な相談が必要な方

- ①過去に免疫不全の診断を受けた人、近親者に先天性免疫不全症の方がいる方
- ②心臓、じん臓、肝臓、血液疾患や発育障害などの基礎疾患のある方
- ③過去に予防接種を受けて、接種後2日以内に発熱や全身性の発疹などのアレルギーが疑われる症状がでた方
- ④過去にけいれんを起こしたことがある方
- ⑤ワクチンの成分に対して、アレルギーが起こるおそれがある方
- ⑥抗凝固療法を受けている人、血小板減少症または凝固障害のある方は、接種後の出血に注意が必要です。（新型コロナワクチンは筋肉内注射のため）
ワクチン接種は体調の良い時に受けるのが基本ですので、特に基礎疾患のある方は、病状が悪化していたり、全身が衰弱している場合は避けた方が良いと考えられますので、あらかじめ主治医と相談しましょう。

◎予防接種を受けた後の一般的注意事項

- ①予防接種を受けた後24時間は副反応の出現に注意しましょう。
特に、接種直後の30分以内は健康状態の変化に注意しましょう。
- ②ワクチンを接種した日に入浴することは構いません。体調が悪い時は無理をせず様子を見るようにしてください。
- ③予防接種後24時間は、激しい運動や過度の飲酒などは控えましょう。
- ④接種後、接種部位の異常や体調変化がある場合は、速やかに医師に相談しましょう。

裏面もあります